



一人暮らしのKばあさんの人生「終わり よければ 全てよし」

85歳のKばあさんは慢性関節リウマチが進み、今では車椅子の生活になってしまった。要介護4、生活のほとんどは介助が必要だが一人で暮らしている。

毎日『ケアホーム希望』の「通い」のサービスを利用し、夜は自分のアパートの部屋に帰り、好きなテレビを観て過ごしている。誰にも気兼ねなく、自由な時間があると。老人ホームへの入所が決まる順番がきても断ってしまう。

そんなKばあさんも少しづつ嚥下状態が悪くなり、気管支炎や肺炎を繰り返すようになった。クリニックへ受診に行くと「どこにも行きたくない。先生に看取られたい」とお願いをする。「分かったよ。Kさん」と優しい先生の手で顔を覗き込む一瞬だ。

好きなものを食べたいと、マグロを口に作る。飲み込みがよく、食も進む…。

そんなある日、Kばあさんが突然咳込み、多量に吐血したので救急車を呼ぼうとしたとき、「〇〇先生に診てほしい」と、必死に訴える。すぐ〇〇先生が往診に来てくれたが吐血もひどく、病院へ搬送することになった。

何か所もの病院から断られ、やっと受け入れてもらい病院に着いた頃には、血圧が低下し、意識が朦朧とした状態であったが、Kばあさんは「みんなにありがとう。〇〇先生によろしく」と…。Kばあさんから聞いた最後の言葉だった。



数日後、入院先の院長から呼ばれ、「Kさんは意識がなく、家族を知らべても身寄りがない…。この人はどんな最期を迎えたいと望んでいたのかを知りたい」という。

Kばあさんは施設への入所も断り、一人暮らしの在宅生活を望み、最期の看取りまでも、〇〇先生にきちんと頼んでいたことを伝えると「それなら帰って〇〇先生に看取ってもらったほうがいいなあ」と言ってくれたが、Kばあさんの状態を市役所の〇〇課に連絡すると「そんな勝手に連れて帰ってくることを決めてこないでほしい。急に言われても、担当者がいないから動けない…」と。結局 話はつかず…。容態は日々悪くなり、衰弱していく。



「Kさんと看取りの約束したので面会に行ってみるわ」と、〇〇先生から連絡があった。そして…先生と面会し安心したのか、翌日Kばあさんは病院で安らかに息を引き取った。

私たちは、食べることが大好きだったKばあさんの棺の中に たくさんのお菓子と思い出の写真、そしてKばあさんが大切に守っていた夫と前妻の位牌を入れた。前妻は31歳のときに亡くなり、息子を連れて夫と再婚したKばあさん。数年前にはその義息子も亡くなり、身寄りもお金も無かったけど、Kばあさんは人柄の良さで誰からも愛され、幸せな人生の終わりを告げた。

マグロとお菓子が大好きだったKばあさん、天国で安らかに！

調理師から今月の食事メニューの紹介



食欲の秋



日本の食事の特徴はなんといっても食材の豊かさです。魚、大豆、海藻、新鮮な野菜といった食材は日本人に欠かせないものですし、これらは健康長寿に大切な成分を多く含んでいます。多くの種類を食べることで、バランスが良くなり、健康長寿の一端を支えています。

今年も緑ヶ丘 **秋の集い** に参加してきました！

2014年

秋祭り

今年は元気に踊りました～！



ビンゴってなんだ？？
でもなんか景品もらったよ！
今日は ありがとう！

私は何が当たったんだろ？
うれしいねえ～

今日の夜のおつまみに
しちやおうかしら…

今年も
息子へのお土産を
Get！

シャンプーか…
私は食べ物が
良かったのに…

ビンゴ大会で
シャンプーと
リンスが
当たったの
ですが…

レク活動の様子

芸術の秋

おやつ作り

美味しいわよ



医療ニードの高い高齢者を支える複合型サービス



Hさんは72歳のとき、くも膜下出血を発症。その後、肺炎を繰り返し胃ろうを造設したり、呼吸状態が悪くなり 気管切開を行い、夫の介護で在宅生活を維持してきた。

しかし、介護をしてきていた夫も病気になると、部屋に2つのベッドを並べ、娘2人が交代で両親の介護を続けてきた。

医療ニードが高い人を受け入れてくれる所がなかなかないのが現状だ。

複合型サービス『ケアホーム希望』では、医療ニードの高い高齢者の方も「介護」と「看護」の両面からサポート、サービスを提供しています！